

県内のプロバレーボールチームであるSAGA久光スプリングスと連携協定締結式を行いました。

この協定は、市とSAGA久光スプリングスが連携協力し、SAGA久光スプリングスの活動を通じて地域の活性化を図ることを目的とするものです。

小松市長は「武雄の子ども達にプロのバレーボールを見せていただき、夢と感動を与えてほしい。SAGA久光スプリングスと連携し、市民の方が元気になれる取り組みを行っていききたい」とあいさつを述べました。



表紙写真：国勢調査が始まります。

9月20日より順次調査票が配布されます。
武雄市の未来のため、調査へのご協力をお願いいたします。

(関連：次ページより国勢調査特集)



TAKEO

広報武雄 No.235 2025年9月号

CONTENTS

▶ 特集	国勢調査2025	…02
ニュース	子どもたちと一緒に官民一体型学校を体験！ 新文化交流施設建設工事起工式	…07
ピックアップ	武雄市にCIR（国際交流員）がやってきた	…09
	健診を毎年受けてからだの健康を守ろう！	…14
	たけおPay商品券引き換え開始	…16
お知らせ	年金生活者支援給付金のご案内 9月9日は救急の日 ほか	…21
おたんじょうおめでとう		…30

発行・編集／ 武雄市役所 企画部 秘書広報課 ☎0954-23-9121
〒843-8639 佐賀県武雄市武雄町大字昭和12番地10
印刷／ 有限会社 四季の丘印刷

市長だより



猛暑が続いたと思ったら、突然の豪雨。毎年のように全国各地で災害が起こり、「天災は忘れる『前』にやってくる」と言われるほどです。この言葉の元になったのが、「天災は忘れた頃にやってくる」という名言。生み出したのは、物理学者の寺田寅彦（1878～1935）です。今月1日は防災の日。彼は、防災の重要性や災害の記憶を忘れないことの大切さについて、今にも通じる多くの警句を残してきました。

当時、寺田は東京田新聞にこんなことを書いています。大地震や大火事のときに、「暴徒が起こって東京中の井戸に毒薬を投じつつある」という流言（根拠のない噂）が放たれたとする。ところが、そんなことを本当にやるには、まず大量の毒薬が必要だ。また、何千人もの暴徒を集めて、それぞれに毒薬を持たせ、受け持ちの井戸を探させ、人目を避けて毒を入れさせる…。このような一連の作業を成し遂げるのは実に大変である。そんな大がかりなことが、現実にはできるだろうか。そういふ点だけからでも、自分にはその話は信じられなかった、と。

災害の犠牲を大きくするのは、人その不安な気持ちに根ざすデマだと言われています。その被害を軽減するためには「適当な科学的常識」が大切だと寺田は言いました。科学的常識は聞くに難しく感じるかもしれませんが、要は「これってそもそもどうなんだろ？」と、わたしたちの常識にいてるって振り返る機会といふ余裕を持つことが大切だということです。これは災害にかぎった話ではなく、今の時代、私自身も常に心がけておかなければならないことだと思います。武雄市長 小松政